

本社
車両部
N・Y
さん



D さんからの学び

クレーンに関する業務全般を吸収

私がクレーンに乗り始めてから Dさんが世話役の立場だったため、教えていただく機会も自然と多くありました。現在でも故障など何か困ったことがあれば、連絡をして教えてもらっています。まだ経験も浅くイレギュラーな対応は難しいのですが、Dさんに聞けば何でも解決できるため頼りにしています。

D さんの尊敬しているところ

常に冷静で的確な判断を下せる人

何ごとにつけても物事の進め方が上手で、優先順位の付け方や段取りの仕方はとても勉強になります。私は自分のことに没頭しがちですが、Dさんのように周囲を見渡しながらかつ冷静に物事を考えられるようになりたいと思います。特に突発的なトラ



ブルの際に誰も焦ることもあると思いますが、全体を俯瞰して見ているので冷静さを忘れません。またクレーンの仕事をしながら、クレーンやトラックの配車作業を両立されていることも大変なことではないでしょうか。社内で色々な連携を図りながら、的確な判断のもと立ち振る舞われている姿も尊敬しています。

後輩 × 先輩

TK plus

Vol.24 2022.9.25発行

多田工務店ではどのような教育がされているのでしょうか？ベテランの教育に対する想いと実際どのような成長を遂げているのかに迫ります！

大介さんとの印象に残るエピソード

クレーン故障も瞬く間に解決！

2～3年前にたまたま一緒に現場になったことがあり、そのときにクレーンが故障してしまいました。しかし状況を説明すると、すぐにトラブルが解消。Dさんのアドバイスで非常に助けられました。私も乗り始めのころに比べれば成長しましたが、トラブル対応をスムーズにこなす域には達していません。普段から勉強になることは多いので、これからも多くを学びながら成長していきたいと思っています。

今後の意気込み

安全第一！先輩の背中を見てさらなる成長を！

諸先輩方に追いつけるよう努力し、仕事ができるようになりたいと思います。そしてオペレーターとして事故を起こさず、安全な作業に努めてまいります。先輩方も安全を意識して継続してきたからこそ、今があると考えています。私も毎日の仕事を無事に終えて、結果として長く継続していけるよう精進する所存です。

若手教育に対する思い

重機は会社の財産、安全第一の作業を

「仕事で扱う重機は会社の財産だ」と認識を持って車両を取り扱ってほしいと考えています。仕事のために、会社から預かって使わせてもらっているものなので、トラックやクレーンなどの洗車や片付けの際にも、丁寧さが必要です。また、重機での作業は一步間違えると重大事故に繋がりがねないため、安全にはとことん気を付けるよう伝えられています。

若手社員 那波さんの成長

これからに期待！

入社したばかりの頃、トラックに試しに乗ってもらったときには、やや危なさを感じる面もありました。今では経験を重ね、重機の取り扱いや運転技術も向上したため、安心して仕事を任せることができ、今までどおり、任せた仕事を安全かつ丁寧にしながら、今まで以上に仕事を頑張ってもらいたいと考えています。

若手教育で大切にしていること

基本を伝え、各自が実践で習得していく

私の役割は入社したてのまっさらな時期に、仕事に必要な基本的な内容を、丁寧に一通り教えることです。あとは個人個人が実地で自ら学び、体得していくしかありません。例えば、トラックでは、積み方の基本と、作業の考え方を教えます。その上で、それぞれの現場に行き、教えてもらったことを基本にして対応し、覚えていくわけです。いくら教えても、自分で何回かやってみないとわからない部分もあります。私自身も若い頃はそうでしたし、技術の習得は、反復して実践してこそ身につきます。

もちろん、クレーンの故障や、思ったより早く仕事が終わったときなど、質問があれば答えます。普段は本社で重機の配車を担当していますが、現場に出ることもあるので、その際はなるべく顔を見ながら話をするよう心がけています。

社員の皆さんへメッセージ

安全第一と作業効率アップの両立を！

クレーン作業は、小さなミスでも重大事故に繋がる可能性があります。一方、安全優先だからとゆっくり仕事をしていると、作業に遅れが生じます。安全第一で丁寧さを保ち、その上で迅速に効率よく操作ができるよう、研究してください。皆さんならできると期待しています！

本社
車両部 車両部長

F・D
さん



俺の現場！ 岩手(2)庁舎 新設等建築工事

自衛隊の駐屯地という非日常の現場には、どのような特徴があるのでしょうか？「今回の現場で初めて遭遇したやり方があったそうです……！」

盛岡事業所 型枠工

K・T さん

盛岡事業所 型枠工

A・T さん

岩手(2)庁舎新設等建築工事

場所 岩手県滝沢市

人数 多田工務店3名、下請け業者・解体屋23名



自衛隊の施設ならではの構造

6階建てで、高さは約30m、1階の床面積は30×80mほどの建物です。自衛隊の庁舎ということで、通常の建物とは違い、一つひとつのフロアの高さが4mほどあることと、壁が分厚いことが特徴です。天井の作業などは少しやりづらく、コンクリートは通常よりも多く使用します。現在作業しているのは、2階部分。2工区に分けたうちの1工区は多田工務店が、もう1工区を別会社が担当しています。(Aさん)

また、自衛隊の駐屯地の現場なので、現場の周りには隊員の方たちが訓練で走っています。挨拶は交わしますが、私達から隊員の方たちに話しかけることはありません。また、邪魔にならないよう、1歩下がって作業を行い、大きな音を出さないよう気をつけています。(Tさん)

急な設計変更でやり直しをすることも

やはり工期に間に合わせることが一番大変です。ワンフロアごとに仕上げる期日をしっかり守ることで、全体の工期に間に合わせるよう心がけています。

しかし先方の都合で急遽、設計変更をされることもあり、1度組み立てて仕上げたものを壊して、やり直さなければなりません。そうしたときは期日ギリギリになることもあるので、大変です。しかし私達は出された指示に従っているだけです。指示を出す親方のほうが苦労していると思います。(菊池さん)

また、広大な駐屯地の中にありながら、工事に割り振られたスペースは意外と狭く、重機や材料の搬入のタイミングには、工夫が必要です。材料は、その時必要な分だけを、カウントしながら少しずつ搬入。余計なものを置いて事故にならないように気をつけています。(Aさん)

この道30年で初めて遭遇したやり方

今回は元請業者の(株)奥村組が手配した別会社と初めて一緒に作業し、同じ大工の仕事でも会社によってやり方が違うのだなと感じました。例えば加工に使用する材料1つとっても、当社は5cmのベニヤ木材を使い、1枚で指定された高さまで組み上げていますが、別会社は6cmのものを使い、2～3枚で組み上げていました。これは初めて見るやり方だったので、同じものを作るのでも色々なやり方があるのだというのが、今回の現場で学んだことです。(Tさん)



ハーネス型の安全帯に慣れて、安全に続けていく！(Tさん)

今年から腰に付ける安全帯が「ハーネス型」という、身体の複数箇所をベルトで締めるものを使用するよう義務付けられました。まだ感覚が慣れていませんが、この先もハーネス型の安全帯を使用し続けると思うので段々慣れていきたいところです。そして、今後も怪我なく健康で仕事を続けていくことが目標です！

引退まで安全第一！(Aさん)

誰一人、怪我なく最後までこの現場をやりきることが今の目標です。冬を挟んで完工まで頑張り、また次の現場にも同じ気持ちで取り組みたいと思います。そろそろ身体が動かなくなる年齢ですが、引退まで怪我なくやれることを願っています。

TK plus

vol.24

2022年9月25日発行